

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100248	
法人名	有限会社 鈴の音	
事業所名	グループホーム宿の里	
所在地	山梨県甲府市右左口町805-6	
自己評価作成日	令和2年12月23日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな山の麓に立地し、遠景に南アルプス・八ヶ岳・茅ヶ岳が見え、眼下には甲府盆地と桃畑が一望できる環境です。建物はゆったりとした木造平屋建てで、吹き抜け・床暖房となっております。利用者様本位のケアを忘れず、心の安定に努め心地よい場所を作り、入居者様同士の人間関係の構築を図り、生きる活力となるよう支援させていただきます。また、ご利用者様・ご家族様にも住み慣れた「家」として最期までこの「家」で過ごすことを目標に内科・歯科の先生にも定期的に往診をお願いしております。9人の少人数でありグループホームでは珍しくほぼ毎日看護師も常駐しており健康面での悩みにも随時お応えできると思います。散歩・合唱レク・体操レクはほぼ毎日行っており、利用者様本位のケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、桃畑が広がり静かな環境にある。職員は理念である「おもいやり」の本質をしっかり理解して日々取り組んでいる。毎月の家族への手紙では、近況報告や利用者の生活の様子を定期的に報告し、家族からも感謝されている。医療面では、医師・家族・薬局が電子メールで細かく情報共有し連絡を密に取っている。事業者は、恵まれた環境にあり、職員と共に日常的に戸外に出て自然と親しみ気分転換や五感刺激の機会を積極的にこなしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム宿の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「おもいやり」です。利用者様について管理者と職員はカンファレンス会議等で話し合っています。	理念の「おもいやり」について、職員間で話し合いの機会を持ち、理念はフロアに掲示し共有している。ケアマネジャーからアドバイスを受け、カンファレンスで検討し、利用者の個々に合わせて言葉かけなど、日常的に心掛け全職員で理念を共有し取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では、自治会長様や民生委員様、市議会議員様や地域包括支援センターも参加されています。町内の回覧板も回ってきます。町内の大掃除やどんど焼き等も参加しています。(コロナ禍のため令和3年1月のどんど焼きは中止)	自治会に加入して利用者と一緒に回覧を回したり、散歩時に農作業をしている、地域の同年代の方と挨拶を交わして触れ合っている。地域の清掃当番では、代表者が参加し地域の一員として取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣の家の人から「おじいちゃんの車イスが壊れてしまった」との相談があり、車イスを貸したことがあります。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍なので郵送方式ですが、2ヶ月に1度、運営推進会議を実施しています。集まった意見・質問は議事録にて管理者が回答しています。	新型コロナウイルスの関係で、運営推進会議の開催は困難なため、関係者に資料を郵送し、意見・要望を様式に沿って記入してもらい返信用の封筒で対応をしている。事故報告に関する質問・コロナ禍での面会の要望があり、ソーシャルディスタンスで居室の面会で対応している。議事録にして関係者に郵送して意見を反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は敬老の日に市役所の方が訪問され、88歳の利用者様にお祝金を渡しました。コロナ禍のため令和2年5月にデイサービス宿の里を休止したのですが、その時も市役所に相談し、指導していただきました。	認定更新の機会に担当者へ事業所の様子を伝えている。コロナ禍で運営推進会議の資料の提出様式が変わったので、作成方法の相談をし連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は電子ロックですが、利用者様の「外でひなたぼっこをしたい」という要望に応じて職員と一緒に戸外に出る支援をしています。また、定期的に散歩など外出の機会を多く設けています。家族の同意を得て4点柵を使用していたが、令和2年6月18日のカンファレンス会議において、身体拘束になるので「今後は使用しない」と職員一同で確認しました。	玄関は電子ロックをしているが、利用者が外出の様子が見られたら、さげなく声掛けし、職員と一緒に庭に出て外気に触れ自由な暮らしを支えている。不安な利用者には、事務所と連携し利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんで対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的な事案があれば、定期カンファレンス会議において話し合いを行い、虐待へつながらないようにしています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使用している対象者は1人います。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が確定した時点で、家族あるいは身元引受人となる方と会い、契約内容など心配・不安がないように十分話し合いを行い、理解を得ています。実際の細部についても話し合い、疑問や要望も聞いています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム宿の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月1回出す手紙の中で家族の意見を聞くことが多い。代表者と家族の間で直接携帯電話やメールで状況報告やちょっとした問題など連絡し、家族からの相談には適宜答えています。	月1回利用者の様子や状態を出す手紙の中で、連絡を取りながら、希望・要望を聞いている。「面会をしたい」という希望があり、居室でのソーシャルディスタンスの対応で行った。また、「居室のカーテンが古くなったので取り換えて欲しい」など意見があり、出された意見はミーティングで話し合い反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートの活用・カンファレンス会議議事録を作成により、いつでも確認できるようにしています。	個人的な意見はその都度聞いて支援している。申し送りノートの活用から、利用者の入浴の時間帯について、個々の好みに合わせて対応している。アルコール消毒でフロアが白くなるため、洗剤の購入等、日常的な関わりの中で生まれた職員の気づき等を取り入れて運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も介助を手伝うこともあり、現場の状況はよく把握しています。カンファレンス会議での職員からの意見も議事録に記録しています。コロナ禍の為、非接触型体温計・空気清浄機・加湿器・アルコール消毒機などを導入し、職場の環境を整えています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に研修を受けるようにしています。新人職員には他の職員と一緒に仕事をしてもらい、仕事を通じて介護の方法や利用者様の特徴を学んでいます。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが開催するケアマネジャー会議や社会福祉協議会が開催する研修にはなるべく参加するようにしています。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームですので、普段の日常生活動作(生け花・洗濯物たたみ・洗濯物干し・モップ掛け・茶碗拭き・新聞折り・古布切り)等を行うときの会話を通じて、不安・要望を聞くようにしています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは施設訪問時などで不安な点や要望を聞き、安心して頂けるように話し合いを重ねています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者様との会話を通じてニーズを見極めています。入居時は必ずアセスメントを行い、ケアプランを作成しています。必要な場合は訪問看護等の他のサービスも利用します。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームですので、家庭的な穏やかな環境を提供できるように心掛けています。利用者様と職員が協同で作業を行う事により対等な関係を築くことが出来ていると思います。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム宿の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは月に1回、定期的に職員が手紙を送り、利用者様の近況を伝えていきます。それ以外にも手紙や電話など頻繁に行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のためご家族も暗黙の了解があり面会の回数を少なくして頂いています。マスク・体温・体調を整えて、面会時には居室や暖かい日はひなたぼっこをしながら屋外で一緒に団楽ができるように環境を整えています。	毎週日曜日に家族からの電話の取次ぎ支援・家族と居室で面会・馴染みの理容院が訪問・家族への手紙郵送への支援等コロナ禍で中々馴染みの人や場所との交流が困難であったが、本人を支えながら積極的なアプローチを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業・体操レク・合唱レク・散歩等を通じて、一緒に時間を共有し、支え合う環境作りに努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH宿の里は看取り介護を行っていますので、最期まで本人・家族との相談・支援を行っています。利用様が入院された場合も情報を病院に提供しています。夫をGH宿の里で看取ったあと奥様が入所されるケースもあります。退所後も職員一同にクリスマスプレゼントを下さる家族もあります。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望があるなど、利用者様の思いはそれぞれだと思います。職員は「なぜその利用者様は帰宅願望があるのか」など利用者様の悩みの本質に迫れるように利用者様の立場に立って考えるようにしています。	日々の関わりの中で、声を掛け、把握に努めている。家族からの情報で「洗濯物をたたむ」事が好きな利用者・家族に会いたい・家に帰りたい等、利用者が直接職員に伝え易い関係が築かれ、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や医師からのこれまでのサービスの経過などの基本情報についてはファイルにまとめています。職員はこれを読み、利用者様の背景にあるこれまでの人生について理解するようにします。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が利用者様の普段と違う点があれば介護記録に残しています。カンファレンス会議でも取り上げ、看護師・夜勤職員・ケアマネジャー等の意見も求めます。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回の定期カンファレンスにて利用者様の現状について話し合いを行っています。利用者様の日々の様子については支援経過にも記録し、ケアプランのモニタリングにも活用しています。	月1回の定期カンファレンスは全職員が参加して、日々の変化を検討してプランに活かしている。利用者が自立した生活が出来る様にアセスメントとモニタリングを繰り返しながら設定ごとの見直しを行なっている。家族の要望や変化が生じた場合は、現状に即した介護計画の見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標は毎日のチェック表でチェックしています。また、職員が気付いたことに関しては主に申し送りノートや業務日誌に記入し、職員間で共有するようにしています。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム宿の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族には、お寿司を持って来たり、外食するために外出される方もいます。その場合は柔軟に対応するようにしています。また、コロナ禍以前になりますが、利用者様を二泊三日の旅行に連れていかれるご家族もありました。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	甲府市役所の介護保険課や笛南地域包括支援センターなどに随時相談し、利用者様の暮らしを豊かにするようにしています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に訪問医療について説明し要望があれば訪問医療で定期的に往診を実施し、利用者様に変化があった場合は医師に電子メールで文章と写真を送って指示を受けています。インフルエンザの予防接種も10月7日に実施しました。	コロナ禍で訪問医療が月1回だが、往診を実施している。変化があった場合は、医師と連携し電子メールで状態・写真を送り指示を仰いでいる。家族が受診の際は、資料を持参して情報の共有を図っている。医師・薬局との連携も取れている。月2回の訪問歯科医療も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師は適宜情報交換を行なっています。毎日16時の申し送りをする時には介護職と看護師が集まり、情報を共有化しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には基本情報等をファックスにて送信しています。また、代表者が病院を訪問したり、電話で今の状況報告を受けるなど、家族や病院と情報交換を行い本人・ご家族の意向を確認しています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」について家族に説明を行っています。利用者様が入居中に重度化した場合における必要となる対応および看取りに関する指針について定めてあります。	重度化した場合の対応について、契約時に説明を確認をしている。看取りの状態については、医師が判断し、共に家族・代表者・看護師・職員で看取りの方針を決め、段階的な合意を得て取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中は看護師がいるので急変時に対応できます。夜間は職員が必要に応じ管理者・主治医に電話・メールにて報告を行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回(6月と12月)に行っています。また、日中と夜間の訓練を実施し、夜間を想定した訓練は夜勤職員と遅番職員の2人でを行っています。甲府南消防署に訓練通知書を提出しています。職員の電話連絡網も作成し緊急時に応援するように職員にも会議で話合っています。	火災想定訓練を12月に利用者共に行なっている。日中は、午後、夜勤帯午後4時からマニュアルに沿って1日で実施している。目標の目安として5分で避難をしている。また、夜勤の避難時間・利用者の駐車場への避難には、職員が待機して対応している。振り返り評価し次回へつなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払い、人格を尊重した声掛けを行い、居室に入る際にはノックをするようにしています。	人前であからさまに介護したりトイレ誘導は行わず、声掛け等にはさりげない言葉かけや対応に配慮している。家族から情報を聞き、利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に支援をしている。また、利用者が自己決定し易い場面を作る様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム宿の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者に対し、自己決定ができるように考える時間を置き、余裕をもって声掛けをおこないます。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身の変化に対応し、起床や食事などは決まった時間を強要せず、その時々利用者様の様子で対応をします。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは利用者様のその人らしさを表現する手段ですので、利用者様のこだわりを尊重し、衣類等も清潔な物を提供しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はフロアにて利用者様・職員が集まって食事ができるように提供しています。食後は利用者様にお皿ふきを手伝ってもらっています。	利用者の好みの物をメニューに入れている。食事チェック表から、嫌いな物・水分摂取を確認しメニュー作りの参考にしている。行事食では、誕生日ケーキのデコレーション・おせち料理・ホットケーキ作り等、個々の力を活かし職員と一緒に作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状況に応じて、通常食とミキサー食などを用意しています。ミキサー食の場合は職員が食事介助を行っています。水分摂取量はチェック表に記入しており、各利用者様の状態を確認しています。食事形態の変更がある場合は職種間の情報共有も図っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを実施しています。夕食後、入れ歯を使用されている利用者様は、入れ歯をはずして洗浄剤にて消毒しています。次の日の朝食前には装着しています。また、月2回、秋山歯科医院の定期往診があります。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを理解し、失敗がないように声掛け・トイレ誘導を行っています。個々の回数・時間帯もチェック表にてチェックし、介護記録にも記載しています。	利用者個々の排泄パターンを把握して、自立に向けた支援をしている。また、細かく記入した排泄チェック表は、受診時に医師からの質問に対応できる様に工夫している。排泄チェック表を使用し、尿意の無い利用者にも時間帯で声掛けし、トイレで排泄できる支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬には頼らずに、自然排泄が出来るように、体操レク・水分摂取量の確保を行っている。また、看護師が聴診器を用いて満腹・便通のチェックを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回実施しています。利用者様が入浴拒否をされる場合は、時間を調節したり、別の職員が声掛けを行い入浴を促します。利用者様の状況によってはシャワー浴の場合もあります。	基本的には午前中入浴しているが、利用者のその日の希望や身体状況を把握して、個々に沿った支援をしている。仲の良い方同士と一緒に、和手拭いが好きな利用者、湯温等、本人の意向に沿い、入浴が楽しみとなる支援を行なっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム宿の里**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の今までの生活習慣に応じ、それぞれ対応しています。また、布団を干すなど寝具の清潔を保つようしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容に変更がある場合は、看護師が申し送りノートに記載しています。また、利用者様の行動に変化があったか介護記録にも注視して記載するように各職員へ伝えていきます。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	合唱レク・体操レク・散歩はほぼ毎日行っています。また、古賀政男・美空ひばり等の利用者様に合わせた音楽の提供を行っています。利用者様には大正琴を弾くのが趣味の方もいます。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍なので遠くには行けませんが、施設の周囲を散歩するなど積極的に外出の機会を設けています。	近所の畑に出かけたり、庭の落ち葉掃き、季節には柿もぎ、庭の栗拾い等、日常的に戸外に出て五感刺激の機会としている。家族の協力で受診の帰りに食事をして来る利用者もいる。コロナ禍では、対策をしながら季節には、桜の花見に行き、歩行困難なケースでも車いすを利用し、外出の支援を積極的に行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の気持ちに寄り添いながら、その人らしい生活に少しでも近づけるよう努めています。(自己管理が困難な方には、本人・家族からの了承を得て、会社の金庫にて保管しています)			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方を始め、大切な人へ電話や手紙のやり取りができる様に仲介しています。毎週日曜日の夕方、定期的に電話をしてくる家族や定期的に手紙を届ける人もいます。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のホールには四角く机が並べられており、真ん中にはクリスマスツリーが飾ってあります。利用者様全員の顔を見ながら食事ができるようになっています。台所からもフロアが見渡せるようになっており、利用者様を見守ることが出来る様になっていきます。また、廊下には生け花が飾ってあります。	共有ホールには、季節の花を囲んで食事が取れる様な配置がされている。フロアから調理をしている姿や匂いもして家庭的である。一面に洗面台があり口腔ケアが積極的に行われている。利用者が集めた葉っぱのクラフト・書初めが掲示されたフロアで、カラオケを楽しみ居心地の良い空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にはソファが置いてあり、くつろぎながら見ることが出来ます。また、外には木のベンチが設置してあり、日光浴をされながら談笑される利用者様もいます。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂き、利用者様が普段から使用されている家具や道具を持って来ていただき、利用者様の普段の生活が過ごせる環境を提供しています。家族との面会時は居室にて行っています。	家族と話し合い利用者が安心して過ごせる様に、家族の写真・ダンス・位牌など馴染みの物、思い出の物が置かれ、快適な環境作りがされている。炬燵が置かれたり、家で弾いていた大正琴が持ち込まれ気分の良い時には部屋で弾くなど、その人らしい居室づくりになっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には利用者様の名前を表示し、それぞれの利用者様の個室であることを明確にしています。			